

Sanfreccce Potato

広島さんふれぽてと

For All Sanfreccce Hiroshima Supporters
Yokohama 2017.07.08 VOL.43
Web Site >>> <http://www.sanfre-potato.xii.jp>

アンケートでご感想をお聞かせください! 抽選で選手サインなどをプレゼントします! いただいたご意見は次回の記事に生かします! はこちらのQRコードまたは「さんふれぽてと」で検索!



DESIGN / 1108GRAPHICS

どん底から這い上がった2006シーズン

負け、分け、負け、分け、負け、分け、負け、分け、負け、分け。開幕からの10試合で0勝4分6敗の勝ち点4。2006年のサンフレッチェは絶望的などん底からのスタートでした。僕はそれまで現地でサンフレッチェを応援したことはなく、テレビや雑誌で結果を知って一喜一憂



していました。ライトファンながらも開幕から勝ちのない状況にイライラしていた時、たまたま友人に誘われて行ったのが第11節の駒場スタジアムでの大宮戦でした。

初めてのスタジアムで見る景色はテレビとは違い、迫力満点でした。選手同士がぶつかりあう音、サポーターの大応援、全てが感動的でした。

しかし、試合は開幕からの不調のまま、一方的に大宮に押される展開でした。シュート数も広島の本7本に対し、大宮は16本。倍以上のシュートを打たれ防戦一方に見えました。

それでも、必死に全員で守り、カウンターから生まれた一本のチャンスをエース佐藤寿人が決めてくれました。それまでバックスタンドの隅にちょこんと座ってなんとなく手拍子してた自分が、立ち上がって叫びながらフラッグを振り回していました。

後半も一方的に攻められながらも全員で守りぬいて、試合終了の笛が鳴った瞬間は、今でも忘れられません。端から見たらカッコ悪い試合だったかもしれませんが、僕には紫の選手、サポーターが最高にかっこよく見えました。

その後、2006年はアウェイ、ホームにいろいろ一人で参戦し、どっぷりサンフレッチェにハマってしまいました。10節を終えた時点でどん底だったサンフレッチェでしたが、最終的には10位でシーズンを終えることが出来ました。

17節を終えてちょうど折り返しを過ぎましたが、まだまだサンフレッチェは厳しい状況に立たされています。そんな中、2006年の僕と同じように、いてもたってもいられなくなって「初めてスタジアムに駆けつけた方」もいらっやと思います。来てくれてありがとうございます!(僕が言うのもおこがましいのですが、今本当にそんな気持ちなのです><)

初めてでも、あなたの応援する気持ちが、選手達に勇気を与えてくれると思います。そして、チームがこんなにも苦しいときに駆け付けてくれたあなたの存在は、選手だけでなく、僕達サポーターにも大きな希望と勇気をくれます。

大声で歌うもよし、小声で歌ってみるのもよし、まずは手拍子だけでもよし、とにかく勝利を祈るでもよし。スタジアムでしか味わえない雰囲気を楽しんでください。そして、必ず勝って帰りましょう。あなたが、そしてみんなが試合後に笑顔で帰れるように、僕達も全力で戦います。あの時、日産スタジアムにあなたが来てくれたから2017年は残留出来た。秋にはそんな話を一緒にしているかもしれませんね^^ チャント(応援歌)の歌詞がわからないという方は、裏面に歌詞が載っているので見ながら少しずつでも歌ってみてください! 最後に、チャントの中でも個人的に一番好きなフレーズを紹介させていただきます。

【俺らの広島 勝利目指し走れ 俺らも広島 共に戦おう】 【ずんだ】

真夏の関東で行われる日本クラブユースサッカー選手権

毎年、群馬&東京を舞台に開催されている日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会。サンフレッチェ広島FCユースは、今年も厳しい予選を勝ち抜いて出場を決めました。

すでにプロ契約をしているGK大迫敬介選手。抜群のパス精度を誇る左利きの大型ボランチ川村拓夢選手。クロス・FK・CKすべてに高精度の右サイド・川井歩選手。前線の動きだしと献身的な守備が際立つ主将・明比友宏選手。切れ味鋭いドリブルとターンで攻撃を牽引するエース・満田誠選手、ドリブルとキープ力に優れたMF仙波大志選手など、昨年主力として戦った選手が大勢残っています。「全員守備・全員攻撃」で、いつ見てもワクワクさせてくれるチームを、ぜひ一緒に応援しましょう。

グループステージ

- 7/23 (日) 11:30 ~ vs アルビレックス新潟@前橋市宮城総合運動場陸上競技場
- 7/24 (月) 11:30 ~ vs 愛媛FC@前橋フットボールセンターC
- 7/26 (水) 9:00 ~ vs 名古屋グランパス@前橋フットボールセンターD

ラウンド16

- 7/27 (木) 9:00 ~ @群馬県内
- 準々決勝 7/29 (土) 9:00 ~ @群馬県内
- 準決勝 7/31 (月) 16:00 ~、19:00 ~ @味の素フィールド西が丘
- 決勝 8/2 (水) 18:00 ~ @味の素フィールド西が丘 【satoko】

J1残留のデータを18クラブ制となった2005年以降で調べてみました

【J1残留を逃したクラブの最高勝点】

2012年の神戸は勝点39を取りながら降格(新潟が勝点40でJ1残留)。

【J1残留をしたクラブの最少勝点】

2016年の新潟は勝点30でJ1残留(名古屋が勝点30ながら新潟との得失点差-4で降格)

森保監督が「まずは勝点40に到達し!」というのは、勝点40で降格したクラブは無いことからひとつの目安にしているのだと思われます。また、シーズン毎の「16位クラブの勝点+1」をそのシーズンの「残留勝点」とすると、残留勝点平均は「33.5」でした。J1リーグ戦は年間34試合ですから、1試合あたり勝点「1」を積み上げていくことが残留を掴み取る目安にもできると考えられます。

次に、開幕からリーグ戦10試合勝利なし、最下位にも沈んだ広島が最終的には10位(勝点45)でJ1残留を果たした2006年の勝点獲得推移も調べてみました。

今日現在と同じ17節終了時で勝点は「16(1試合あたり0.941)」でした。このシーズンで1試合あたり勝ち点「1.00」を初めて「超えた」のは21節ホーム磐田戦の勝利後(1試合あたり勝点「1.047」)でした。その後は苦戦をしながらも連敗は一度も無く、終盤の29~33節の5連勝を記録する中でJ1残留を確定しました。

2006年は監督交代もありドイツワールド杯開催期間のリーグ戦中断もありましたから今季とは状況も日程も異なります。また、残留を争うクラブの勝点獲得状況も異なるので、これらはあくまで「目安」であり、「過去のデータ」なのですが・・・

しかし「勝点をひとつずつ積み上げる」ために、応援を続けることが大切! 17節や18節で諦められるわけないですよね!

厳しい残留争いは選手だけでは勝ち抜けません。このスタンドからの声援や手拍子・拍手、紫のサポーターが創る応援の雰囲気や選手のプレーを後押ししましょう! 勝利への意欲を掻き立て、積極性や勇気を引き出すのはサポーターの声援です! ね!

現状では「勝点40」という目安はちょっと遠く感じて気持ちが入りにくいかもしれませんが、だから、1試合1試合確実に勝点を獲ること、残留圏(15位)との勝点差を意識して、粘り強く諦めず貪欲に冷静に最後まで応援を・・・

2018年、我々がどんなステージに立っているかは、まだまだこれから、今日からの17試合の選手たちと我々サポーターの闘い方次第なのです! 【きのり】

ここ日産スタジアムはミキッチ選手の日本デビューの地!

通称「熊害」と呼ばれるまでにJ2を席卷して、J1に舞い戻ってきた2009年の開幕戦日産スタジアム。

自信はある。でもホントにJ1でも同じようにやれるんだろうか? そんな我々サンフレッチェの小さな不安を、東欧からやってきた新星ミハエル・ミキッチ選手が、衝撃的なドリブルスピードとともにあっさり切り裂いてくれたのでした!

敵味方の誰もが感嘆した、誰も止められない超高速サイドアタック! 今でも目に焼き付いています^^ しかもちょ〜イケメン!



©2017 S.F.C

一方、あの頃のミカは、すさまじいスピードと引き換えに、後半少しするともう顔を真っ赤にして膝に手を当ててゼーゼー肩で息をしている姿が印象的でした。毎試合、交代枠の一つは必ずミカの為に使われていました。

でもそのままでは終わらない。年齢を重ねるごとに日本の気候に適応し、30過ぎてなおスタミナを増強して、数年後には90分を走り切るまでに!

今年で37歳、現在腿裏リハビリ中ですが、鉄人ミキッチ選手は更に進化して必ず右サイドに帰還します!

【アウェイ日程表】

日付	時間	対戦相手	日付	時間	対戦相手
20	8/5 (土) 19:00	ジュビロ磐田	27	9/23 (土) (祝)	未定
22	8/13 (日) 19:00	ベガルタ仙台	29	10/14(土)or15(日)	未定
24	8/26 (土)	未定	32	11/18 (土)	未定
25	9/9(土)or10(日)	未定	34	12/2 (土)	未定